

開幕に向けて練習に励む八学大の選手ら＝26日、YSアリーナ八戸



# あす開幕 高まるムード



「スケート国体」としては最後、八戸市では通算14度目の開催となる特別国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「未来へつなぐ八戸国体」は28日、八戸市などで開幕する。青森県南地方での開催は2020年以来3年ぶり。開幕が目前に迫り、各会場では準備が急ピッチで進んでいる。選手たちも開催地入りして調整に励むなど、本番へ向けたムードが高まっている。【12月に関連記事】

今大会は、全国44都道府県から選手、役員1760人が参加。2月5日までの9日間、同市と南部町の4会場でスピード、フィギュア、ショートトラック、アイスホッケーの4競技で熱戦を繰り広げる。

スピードスケート会場のYSアリーナ八戸で

は26日、30日の競技開始に備えて導線の設置などが進んだ他、県内外の選手たちが練習に汗を流した。福島県代表として出場予定だという八学大3年の安田彩夏選手(21)は「応援してくれる方々に結果で恩返ししたい」と意気込んだ。

会場には青森県立八戸高書道部が大会テーマやスローガンをしたための書が掲出されるなど、地元の高校生らも大会をバックアップしている。青森県代表として出場する同大3年の上野恵理子選手(21)は「地元の応援がある中で臨めるのはうれしい。(昨年12月の)インカレが終わってからしっかり追い込みができたので、少しでも良い結果を残したい」と力を込めた。

27日は市公会堂で開始式のリハーサルなどが行われる。フィギュア会場のフラット八戸、ショートトラック会場のテクノルアイスパーク八戸では28日の競技開始に備えて、各都道府県代表が公式練習を行う。

(文・福田駿、写真・大粒来仁)